

# もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: [hgakuren@lime.ocn.ne.jp](mailto:hgakuren@lime.ocn.ne.jp)

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

## 本号内容

1. 広島地区高校新人登山大会 (11/9 CERO・11/10 広島国際学院高校～日浦山) 報告
2. JMSCA 自然保護委員総会 (11/9～10 宮城県石巻市金華山周辺) 報告
3. 登山教室 (2 年 11/9～10 琴引山～大万木山、1 年 11/16～17 呉(九嶺)～瀬戸島山、岩稜クラス 11/16 鎌倉寺山) 報告
4. 国立登山研修所安全登山サテライトセミナー (11/16～17 福岡市九州大学) 報告
5. 県民ハイキング (11/17 牛田山) 報告
6. 広島県登山部顧問等安全登山講習会 (11/29 広島市東区民文化センター)・広島県高体連登山部 安全登山顧問研修会 (11/30 五日市高校・極楽寺山) 報告
7. 岳連短信 (寄贈御礼、12～1 月行事案内)

登山ともなりました。



開会式、クライミング体験指導、コンペ (女子リード)



男子リードは完登者が 3 名出たため急遽決勝を行う、閉会式

## 1. 広島地区高校新人登山大会報告

(西部)

1 日目の 11/9(土) 昼過ぎまでは府中町の CERO でクライミング体験とクライミングコンペが行われました。コンペはトップロープの部とリードの部の 2 部門で、リードの部の男女それぞれの上位の 2 名が 12/21～22 埼玉県で行われる全国大会へ出場します。

クライミングの大会運営は高体連登山部の若手顧問である西川さんを中心に競技部スタッフも協力してスムーズに行われ、参加生徒も多く、良い大会でした。(参加生徒 60 名、引率者 21 名(内 3 名保護者)、保護者以外の連盟スタッフ 2 名)

その後、幕営地の広島国際学院高校(海田町)に移動し、2 日目の 11/10(日)は日浦山で地図読み練習に主眼を置いた登山が行われました。天気も良く、快適な

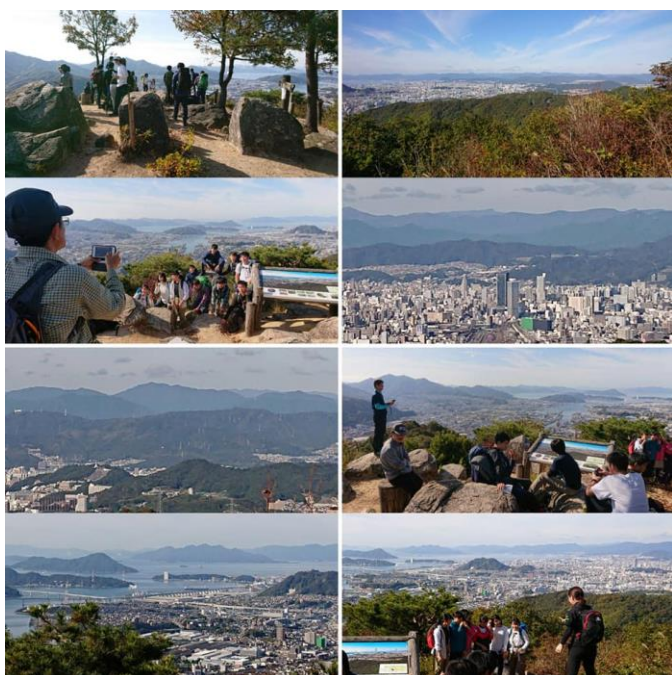




全国大会出場の岡崎さん・石井さん・延近くん・升田くん



2 日目国際学院高校から日浦山へ



日浦山山頂からの眺め



配布地図とポイント設置地点

## 2. JMSCA自然保護委員総会報告

（普及部 松井 秀樹）

今年度の自然保護委員総会は、11月9日（土）から10日（日）にかけて、宮城県石巻市の金華山周辺で行われました。9日の会場は、JR石巻駅から送迎バスで1時間、牡鹿半島のリアス式海岸の入り江ごとに、空き地の広がる（そしてしばしば堤防を築く工事をしている）港とその近くの小高い所にある新しい住宅団地をいくつも越えた鮎川港近くの丘の上にある「牡鹿保健福祉センター清優館」です。

開会式の一通りのあいさつの後、京都にある総合地球環境学研究所特任教授で森林生態学者の中静（なかしずか）透先生による基調講演「金華山の森との対話」が行われました。先生は昨年3月まで地元の東北大学に在籍され、その時に、金華山でクライミングやトレッキングを通じた地域振興に取り組む NP0「ファーストアセットジャパン」の代表理事の村上さん（宮城県山岳連盟副会長）から「金華山の自然が危ないのでは



ないか」と相談を受け、ユニークな金華山の森も地域振興のために活用できないかと考えて一緒に活動していらっしやるとのことでした。講演の要旨は次のとおり。

#### ○金華山の森は大きな森

島全体が神社の神域とされたことから人の手が入っておらず、ブナ・シデ類の原生林、巨木のモミ林が広がる。

#### ○金華山の森は変な森

普通は巨木の下には低木・若木・下草などが生えているが、金華山にはない（歩くのには都合がよい）。理由はシカが食べるから。

しかし、草が全く生えていないわけではない。アザミ、メギ、タラなど鋭いトゲが生えていてシカに食べられない植物は生えている。タラといっても普通のタラとは違う長いトゲが生えている。これは長年にわたりシカに食べられなかったものだけが淘汰されて残っているからだと思われる。

もう一つ生えているのが、マムシグサ、ウラシマソウなど毒を持つ植物。シカに食われにくいと言われていたバイケイソウも生えているが、それでも食べられていることがある。食べるものがなくなると、毒の弱いものは食べるのか、毒も時にはスパイスなのか。

他方で、芝の草地が維持されているのはシカのおかげ。天然の草刈り機である。

シカの食害を防ぐために 20 年前に設置した防鹿柵の向こうは、低木が密生している。

現在は日本全国の山で同じようなことが起きている。日光山系でも、柵で囲ったところだけ低木が生えている。ただし、シカが入ってくる前は、ササが地面を覆い他の植物が育つのを妨げていた。シカがササを食べたので、他の植物が育ちやすくなったという面はある。

#### ○金華山の森は危ない森

シカが多い状態が続く中で、倒れる木が増えている。本数的には、1ヘクタール当たりで年間1本か2本。この数字自体は他の森と変わらないが、後を継ぐはずの木がシカに食べられて育っていないから裸地となり、影響が大きくなる。

また、最近はナラ枯れも増えている。ナラ枯れの病

原菌を運ぶキクイムシは大きな木が好きである。昔はナラを薪や炭に使っていたため大きな木にならなかったが、最近は全国的に大きなナラやブナが増えたことから、キクイムシにとって住み良い環境となり、病気が広まっている。

#### ○まとめ

金華山の森は、植物と動物との関係を興味深く語ってくれるユニークな森。でも、取り扱いに注意が必要。シカの害を防ぐには、一番は個体数の管理だが、増えすぎた現状では手遅れか。戦後 GHQ が金華山で鹿狩りをしたため一時的に頭数が激減したが、その後増え続けている。何十年かに一度の大雪が降った冬は、餌がなくなって頭数が大きく減っているが、地球温暖化により今後はそれも期待できない。柵を作るしかないのが現状。しかし柵も震災で壊れ、そもそも船が着けなくなった時期もあって、活動が停滞している。

全国的にもジビエへの活用等が進んでいるが、それでも増えるのを抑制する程度の効果。しかもそのために多くのコストをかけている状況である。

午後からは、各都道府県の自然保護委員の活動報告と意見交換です。印象に残った活動は次のとおり。

（岩手）「岩手山の花と樹」という写真集の編纂を始めた。自然保護委員の活動として始めたが、今は山岳協会の組織的取り組みとなった。現地調査に昨年 90 日、今年は 30 日行った。写真を 1 回に 300～400 枚撮るので、整理に時間がかかる。素人なのでまともなものができるか不安だが、見たこともないコースも歩き、クマにもよく会った。自然保護委員が山についてよく知るきっかけになった。

（千葉）海の植物と山の植物がどう違うかという興味から、鋸山（南房総国定公園）及び富山（県立自然公園）等の植物調査を行っている。先日の台風で大きな被害を受け、倒木が土を持って行ってしまい、土が流されて岩がむき出しとなっている。今後植物が生えるかどうか不安である。

（東京）今年 3 月末に閉鎖された奥多摩小屋周辺の環境を調査し、マスコミ等へも情報提供を行い、テントサイト・トイレの再建を行政に働きかけてい

る。小屋の閉鎖によりテントサイトが無断で使われて荒らされることを懸念しているが、今のところそのような状況にはなっていない。

(神奈川) 県有水源林において、県補助金(チェーンソー購入、燃料代に利用)をバックに森林づくりボランティアを実施している(年10回予定)。

(山梨) 自然保護委員会を毎月開催している。もうすぐ100回になる。メンバーは岳連の委員5人、自然保護に興味のある人43人で、毎回20~30人が参加。山梨学院大の学生など若い人も参加してくれている。

(石川) 「ふるさとの山を登ろう in 石川」という催しを、植物観察と自然保護をテーマに高尾山で開催。途中でクマの痕跡を見つけ、参加者の一人が山頂で「クマは射殺しろ」と発言したため大論争に発展した。

(岐阜) 山のカレンダーを作り1部500円で売って活動資金にしている。

(三重) 5月に野鳥の会とタイアップして探鳥山行を実施、13人が参加。オオルリ、アカゲラからドバト、ハシブトカラスまで17種類の鳥を見ることができた。

(岡山) 今年は瀬戸内JAMというクライミングや音楽祭などが開かれるイベントから声がかかり、その一環として自然保護研修会を行った。今回も議題を決めて参加者で意見交換を行った。面白かった意見は、標高400mくらいのある里山で30匹くらいの猫が棲みついており毎日餌をやっている人がいて困る、毎日登山道を箒で掃いてくれる人がいるが過剰清掃であり私は落ち葉を踏みしめて歩きたい、センブリやササユリなどの盗掘が問題だ、山でのトイレ問題は登山前に「トイレに行っておいてください」と指示するだけで効果的、など。

**意見交換**の主な内容は次のとおり。

○自然保護委員の登録や更新を申し込んでも、連絡がだいぶ経ってからくる。お金を入れているのに免許がいつ来るかわからない。どのようなシステムになっているのか。

→(事務局) コストの関係で、枚数がたまらないと発注できない。年に1~2回まとめた発行になる。時期は事務局に問い合わせさせていただきたい。

○自然保護指導員の腕章は、リュックに付けていたらすれ違う人に「ご苦労さん」と言われる。今のワッペン小さすぎて気づいてもらえない。啓発のためについているのだから、気づいてもらえないと意味がない。腕章に戻すべきだ。

→(事務局) 日山協の全国大会で若い人から「腕章はダサイ」という意見が出て変えた経緯があり、難しい面があるが、ご意見も踏まえて今後考えていく。

○富士山で清掃登山を行っているが、登山道で拾ったごみを山小屋が受けてくれない。山小屋も環境整備の意識を持つよう、山梨県の自然保護委員から言っていて欲しい。

→山小屋としては、登山道に落ちていたごみなのか登山者が持ち込んだごみなのかは判断できない。自己責任で拾ったごみなのだから、自分で下まで持って下りるべき(など反論多数)。

○最近山で外国人をよく見かけるようになったが、外国人のマナーが課題である。

→(長野) 本県の自然保護レンジャーは県がつくったマナーカードを持って登山者に渡している。このカードには日本語のほかに英語で基本的マナーが書いてある。

○ドローンの空撮についてどう思うか。

→山岳救助隊は捜索にドローンを使っている。クライミングをする者からすると、ドローンは岩探しという面では便利。

○自分のためにかかったコストは自分で負担すべき。山の施設は有料にして、山に小銭を持って行くことを習慣とすべき。

→行政が作った施設は有料にすると条例が必要。

→登山者にアンケートすると、百円までなら負担してもよいと言う。もともと水や電気があるところなら百円でも採算がとれるだろうが、わざわざ水や電気を引く必要がある場合は百円では採算がとれないのではないかな。

○自然保護指導員には知識豊富な人もいるが、腕章だ

けしてふんぞり返っている人もいます。もっと勉強する態度が必要である。

→ (事務局) 指導員の手引きを日山協のホームページで公開しているので参考にしていきたい。

会議の後はホテルに移動し懇親会です。各県の参加者の紹介のため私が登壇すると、日山協監事の中嶋さんも「自分も三原の出身だ」と仰って登壇されてきたので、「三原は地元の山の会の方が登山道を整備し、『三原 10 名山』というパンフレットを出すなどの活動をしている」ことなどを紹介させていただきました。

翌日は**金華山登山**です。ホテルから再び鮎川港に移動し、チャーター船で島に移動します。金華山は周囲 24 km。宮島と同じく島全域が黄金山（こがねやま）神社の神域とされています。金華山は東日本大震災の震源に一番近い島だそうで、もともと港の周りには土産物やイカ焼きなどを売るお店が並んでいたのですが、津波ですべて流されて、再建された港にはコンクリート製の無人の待合室がぽつんと建っている、ちょっと味気ない風景となっています。ただし待合室はきれいで割と広く、「ここで寝袋で泊まってもいいのではないか」という声もありました。防波堤は、「1000 年に一度の津波に耐えられるとの触れ込みだが、毎年の台風でちょこちょこ壊れているように思う」と地元で活動している NPO の方の話。また、島に何軒かあった民宿も、震災後しばらくの間船が着けなかったのですべて廃業されたそうです。

登山を始めると、なるほど巨木が並び、下草がなく、非常に見た目がきれいな、気持ちの良い、公園のような森が広がっています。そして防鹿柵の向こうは細い木がびっしり。ところどころ柵が倒れていましたが、あまりにびっしり生えているのでシカも入れないのか、今のところあまり広範囲には食べられたようにはありませんでした。

尾根に上がると、太平洋が見渡せます。「海の向こうはアメリカだ!」という声も上がります。標高およそ 445m の山頂に着くと、今度は仙台方向の眺望が広がりますが、残念ながら仙台は少し霞んでいました。しかし地元の方が、「あのうっすら見える山が蔵王だ」

と教えてくれました。山頂の下の陽だまりで昼食。渡されたお弁当は、ずっしりとしたおにぎり 2 つ（わかめご飯・味噌をつけた焼きおにぎり）、おかずは鯨の竜田揚げやカニの天ぷら（エビ天かと思ったらカニだった）など、それにずんだ餅まで入った豪華版です。でもどなたかの「この辺りではわざわざ肉を取り寄せるよりも、海産物の端肉を使った方が手間がかからないのでは」との意見に納得。

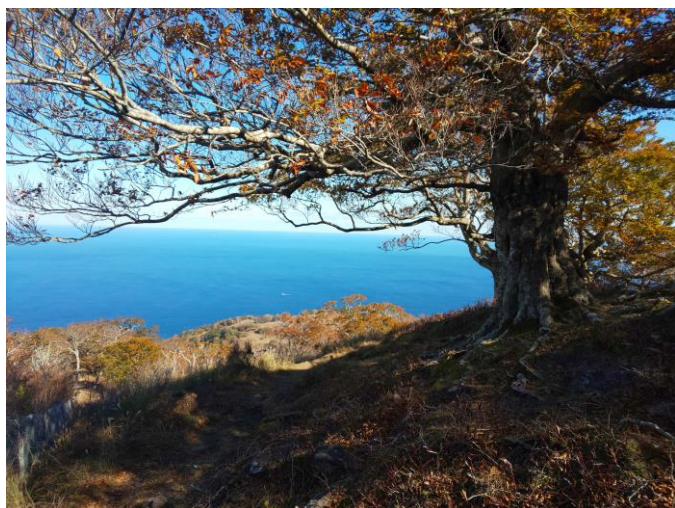
下山も、太平洋を望む気持ちのいい尾根道を下り、途中から右に折れて見た目きれいな巨木（だけ）の森を下り、海沿いの高台の巻き道を通って港に帰ります。遊歩道のすぐ脇では、子ザルが 2 匹、気持ちよさそうに毛づくろい。人が来てもお構いなしです。

休憩時間・昼食時間も含め、一周ちょうど 4 時間、ちょっと遠いですが機会があればまた訪れたいと思う、気持ちのいいトレッキングコースでした。再びチャーター船で鮎川港に戻り、解散となりました。



参加者集合写真（長野県・小林貞幸さんより）

以下の金華山風景写真は松井さんより







### 3. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第8回2年生 11/9(土)～10(日)

登山形態：テント泊山行

山城：琴引山～大万木山

人数：10名(スタッフ含)

今回の2年生は無積雪期の集大成で琴引山～大万木山に行ってきました。夜中に雨が降ったものの2日間とも行動中は天気恵まれ計画通りの行動ができました。

『11月山行を終えて』

(登山教室2年 蔭田 由美子)

今回の琴引山～大万木山～指谷山～琴引山の山行は無雪期最後の山行。7月の穂高山行以来、8月は沢登り、9月は都合が悪く欠席、10月は台風の影響により山を歩いていないため、テント泊装備での山行は4ヶ月ぶりでした。相性抜群の愛用の靴の底が擦り減

ってしまいリソールに出してあまり履いていない重い靴を履いていくことになるのと、数日前から腰に違和感を感じており、今回はコンディションが良くない状態で、更にアップダウンも多くとにかく長くてしんどいルートと聞いていたのでビクビクしながら準備をして参加しました。

きつい登りが何度もあり、気を付けながら歩いていましたが、大万木山に到着する頃には踵にできたマメは潰れ、腰も痛みが出て強力な湿布をいただいて貼りました。

聞いた通りアップダウンが多く、特に草峠と大万木山の間の大階段は1日目の登りも、2日目の下りもしんどかったです。夜中に雨が降り、翌日の1005ピークから指谷山までの激下りで滑りやすいことが予想されたため、スタッフの方の判断で共同装備と宿泊装備を車に預けることができて助かりました。結局その箇所は雨が降ってなくて普通に降りることができましたが、フル装備だったら最後まで歩けていなかったかもしれません。

かなりしんどい山行でしたが、紅葉が楽しめたこと、三瓶山や大山などが見えて眺望がよかったこと、差し入れのジュースに癒され、いろいろ話しながら歩いて今回も終わってみれば楽しい山行でした。そして意外とあの激下りは天気も良かったので楽しく下りることができました。スタッフの皆様、2年生の皆様、今回もありがとうございました。

来月は都合が悪く欠席となり、1月はもう完全に積雪期のテント泊装備ということで、少しでもトレーニングと装備の使用方法も含めた確認をしておこうと思います。次回の山行もよろしくお願いいたします。



(写真提供 森本 覚)

## 第8回1年生 11/16(土)～17(日)

登山形態：テント泊山行

山城：呉(九嶺)～瀬戸島山

人数：10名（スタッフ含）

今回の1年生は無積雪期のまとめとして呉(九嶺)～瀬戸島山に行きました。天気も良く、目標の2日間で40kmを無事全員完歩できました。(森本)

『11月の山行を終えて』

(登山教室1年 高田 正剛)

今回の山行は、登山教室1年の夏山テント泊山行の集大成として、そして冬山へ向けての体力強化を目的として実施されたもので、計画段階での沿面歩行距離は約40km、上り及び下りの累積標高は、それぞれ約3,300mになる厳しいものでした。

私のこれまでの登山教室夏山テント泊山行の結果は、7月：大雨警報発令のため1日目で中止、8月：体調不良（右足膝痛）のため1日目の山行終了後にリタイア、10月：同じく体調不良（右足膝痛）のため2日目の途中でリタイア、という惨憺たるもので、歩いた距離は徐々に長くなっているものの、一度も最後まで歩ききったことがありませんでした。

5月に痛めた膝はなかなか完治しないのですが、そんなことには関係なく月1回の実技山行がやってきます。このまま一度も最後まで歩くことなく終わるといふ不名誉な記録をつくるのではないかなどと本気で考えているうちに11月の実技山行の日になりました。

1日目、灰ヶ峰山頂までのアップダウンは問題なかったのですが、そこからの段差のある（階段状の）長い下りで皆についていくことができなくなり、山道が終わり舗装された道路に出たところで装備の大半をスタッフの方や登山教室の仲間に分担してもらい、なんとか大空山青年の家にたどりつくことができました。

2日目、午前中の尾島山から音戸の瀬戸公園までの登山道は、比較的きれいで、斜面は階段状に整備されていたのですが、普通の階段でもうまく降りることができない私にとっては、難所となってしまいました。なんとか皆についていけたのは、初日の灰ヶ峰の下りと比べると距離が短かったからだと思います。

第二音戸大橋を渡って倉橋島に入ってから最後のピークである瀬戸島山までの登山道は、休山と比べると整備されておらず、段差の多い下りも比較的少なかったため、午前中よりも楽に、少なくとも膝に大きな負担を感じることなく歩くことができました。

瀬戸島山山頂では、そこからの下りの一部が急であり、膝に負担がかかるおそれがあることから、私の装備の一部を渡すようスタッフの方から指示がありました。私は、多分大丈夫だと思ったのですが、初日ですでに装備を分担してもらっていたため、今更にどうしても仕方がないかという甘えがついてしまい、お願いすることにしました。少し後ろめたい気持ちもあったのですが、荷物が軽くなり、急であっても段差の少ない下りの道は快適で、最後にあるはずの藪漕ぎも中国電力の方が鉄塔の巡視の際に刈ってくれていたため、苦勞することなくゴール地点の有清バス亭に到着しました。

山行の結果は、沿面歩行距離 41.3 km、累積標高 登り 3,265m、下り 3,261m、行動時間 20時間55分で、予想どおり厳しいものでした。

今回は途中でリタイアせず最後まで歩くことはできたのですが、結局、私の登山教室1年の夏山テント泊実技山行は、テント泊装備で歩くという課題をクリアできないまま終わってしまいました。

来月からは冬山実技山行が始まりますが、最初の2回は日帰りで距離も短く、段差が雪で埋まってくれば、夏山よりも膝に負担がかからなくなるので大丈夫だと勝手に思っています。

これから始まる冬山実技山行、そして来年の2年生夏山テント泊実技山行では今よりも頑張りますので、よろしくお願いします。







（写真提供 森本 寛）

#### 第4回岩稜クラス 11/16(土)

登山形態：岩稜歩き

山城：鎌倉寺山

人数：7名（スタッフ含）

岩稜クラスの4回目は鎌倉寺山に岩稜歩きに行ってきました。今回もロープを使って確保の練習をしました。

（森本）

#### 『感想文』

（登山教室岩稜クラス 川口 浩）

4 回目の岩稜クラスは鎌倉寺山で訓練を行いました。装備は前回と同様、カラビナ、スリング、チェストハーネスです。

最初はラッペルです。ロープをダブルにして末端を結び、ムンターヒッチでラッペルを実践。順番に降りて行き、後の人が降下する時、落下しないようにロープを持って引っ張れるようにして待ちます。ラッペルについては、うまく降りることができません。自分では思っているイメージと実際とのギャップが随分あるようです。

次は、リードクライミングで、ペアでビレイヤーとトップの役割を行いました。最初に相互でムンターヒッチ、安全環、エイトノットと末端処理など安全確認して登り始めます。1 番目の支点は出来るだけ早めにとる事、2 番目までが、一番危ない事。ビレイヤーはロープの残りがどのくらいあるのかをトップに伝える必要がある事。支点を取る時はロープが自然に流れるようにスリングの長さも考慮する。トップに登り切りセルフをとって合図があったらムンターヒッチを

解除し声をかける。次にトップが上でセカンドビレイを行うのですが、インラインエイトなどを使い木や岩などに支点をとってムンターヒッチでセカンドビレイを行う。セカンドビレイを行う場合は谷側に背を向けてしたほうがやりやすい事など。今回、トップの役割は実践できなかったもので、次回にでも経験したいと思います。その後、馬ノ背をビレイしてもらい通過しましたが、運動不足のせいか前回より体が重く感じました。

今回も、ロープワークについていろいろと体験することができました。声かけによる安全確認とても重要であることもよくわかりました。体験したことを身に付けて、できなかったことも改善して行きたいと思います。ありがとうございました。次回もまた、宜しくお願いいたします。



（写真提供 久保田 征治）

#### 4. 国立登山研修所安全登山サライトセミナー報告

（西部）

2017 年 3 月 27 日の栃木県高体連登山部雪崩事故（高校生 7 名・顧問 1 名死亡）を受け、2018 年度から実施されるようになったセミナーですが、福岡と比較的近い所での開催で無料ということもあり、参加してきました（福岡以外では今年度は 7 月に滋賀県大津市、12



月に東京都で開催)。私以外にも当連盟会員が 8 名参加していました (JAC 広島支部 4 名・安藤縦走会 2 名・広島パイオニアクラブ 2 名)。

内容の概略は以下の通りですが、多くの講義が成程と思わせるものであり、大変有意義なセミナーでした。特に何年か前には広島県の登山者も北海道で低体温症による死亡事故を起こしており、大城先生や熊谷先生の講義は貴重でした。広島県では雪崩による遭難事故はあまり起きていませんが、我々の活動フィールドは広島県だけではありませんから、飯田先生の講義内容も大切だと思いましたし、山本先生のトレーニングに関する講義も参考になりました。

このセミナーは来年度以降も継続されるものと思いますが、皆様にはぜひ受講を勧めます。

#### 【内容概略】

期日 11/16(土)～17(日)

会場 福岡市 九州大学椎木講堂

目的 安全で安心な登山を実施するために必要な知識を普及するとともに、自立した登山者の育成を目指す。

主催 独立行政法人日本スポーツ振興センター

共催 (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、  
(公財)全国高等学校体育連盟

後援 スポーツ庁

日程

11/16(土)

受付 12:00～ 開会式 13:00～13:10

講義 I 「医学」 13:10～14:40

「事例から学ぶ山の医学～怪我への対応と低体温症～」大城和恵氏 国際山岳医 社会医療法人孝仁会 北海道大野記念病院 国立登山研修所専門調査委員

講義 II 「プランニング」 14:50～16:20 「安全登山の仕組みとプランニング」北村憲彦氏 名古屋工業大学教授 国立登山研修所専門調査委員 国立登山研修所主任講師

講義 III 「運動生理学」 16:30～18:00 「登山中にトラブルを起こさないための身体の知識とトレーニング方法」山本正嘉氏 鹿屋体育大学教授 同スポーツトレーニング教育研究センター長 国立登山研修所専門調査委員

11/17(日) 受付 9:00～

講義 IV 「積雪と雪崩」 9:30～11:00 「登山における積雪と雪崩の基礎知識」飯田肇氏 富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課長 国立登山研修所専門調査委員 (公社)日本雪氷学会員

講義 V 「気象」 11:10～12:40 「気象遭難を防ぐための天気図の見方～安全登山のために、気象リスクを予想しよう～」猪熊隆之氏 気象予報士 株式会社ヤマテン代表取締役社長 国立登山研修所専門調査委員 (昼休憩)

講義 VI 「リスクマネジメント」 13:40～15:10 「山は素敵な出会いの場」村越真氏 静岡大学教授 (公社)日本オリエンテーリング協会顧問 国立登山研修所専門調査委員

諸連絡 閉会 15:20



セミナー会場の九州大学伊都キャンパス椎木講堂



大城先生と飯田先生の講義

(講堂の座席の傾斜は雪崩が起きやすい角度！)

## 5. 県民ハイキング (11/17 牛田山) 報告

(広島やまびこ会 萬行 馨)

期日：11月17日(日)

場所：広島市東区 牛田山(260.7m)

担当：広島やまびこ会

参加者：一般 15 名、担当団体 15 名、岳連会員(担当会以外)22 名、計 52 名

## 実施概要

9:00 広島駅北口集合→「シブリカ公園」へ移動・受付

9:20～9:40 「開会式」、コース説明、班分け等

9:40 公園出発→東照宮→仏舎利塔→尾長山→牛田山  
(昼食、12:10～13:30) →神田山→見立山→牛田旭口  
(14:45) 「閉会式」・15:00 解散

＊ 歴史説明：数ポイントで実施（豊田理事長）

＊ ワンポイントレッスン：山の天気（小田里子さん）

## 感想

①に体調、②に天候が楽しい登山の必須条件であるが、正に絶好の小春日和に恵まれ、すっかり秋めいた里山を存分に楽しむことが出来ました。参加いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



(陰になった方はすみません…)

**6. 広島県登山部顧問等安全登山講習会・****広島県高体連登山部安全登山顧問研修会 報告**

(西部)

11/29(金)の午後、広島市東区民文化センターでスポーツ庁と県教委主催の**広島県登山部顧問等安全登山講習会**が開催され、翌11/30(土)午前には五日市高校および極楽寺山中腹で広島県高体連登山部主催の**安全登山顧問研修会**が開催されました。

昨年は金曜日の午前午後を割いた机上の安全登山講習会に連盟から4名の講師と2名の協力スタッフを派遣して対応しましたが、今年は顧問の先生たちの勤務日に丸一日時間を取るのが難しいのと、顧問の先生たちから実技研修の要望が大きかったため、上記のような形を取りました。

1日目の講習会（参加顧問11校・15名）では、最

初に県教委の担当者の方（学校体育係の前田指導主事）から、一昨年の栃木県高体連登山部雪崩事故を踏まえてのスポーツ庁通知（①高校生の冬山登山の原則禁止、②例外的に冬山登山を実施する場合の条件、③安全な冬山登山のための顧問の研修）の再確認があり、その後、連盟顧問の岡谷さんが「登山活動の留意事項」のテーマで話をし、顧問の先生たちには指導者として積極的に研修に参加し資格も取得してもらいたいことを要望しました。続けて西部が「過去の(雪山)遭難事故事例の発生原因と対応策、(雪山)登山計画の立案」というテーマで話をし、具体的な事故事例の検証を行うとともに雪山遭難事故を起こさないための対策をまとめ、広島県高校生雪山大会コースの再確認、高校生に適当な雪山の紹介を行いました。

2日目の研修会（参加顧問8校・11名）では、指導部長の森本さんから、カシミール3Dの講習とそれに連動させた地図アプリ（ジオグラフィカ）の講習があり、実際に極楽寺山中腹まで登ってジオグラフィカを使用してみるという実技研修を行いました。指導部の松本さんと沖元さんも協力スタッフとして同行してくれました。多くの顧問にとってジオグラフィカは初めてだったようで、有意義な研修となりました。

参加者の方からの感想文がありますので紹介します。

## 『安全登山講習会を終えて』

(広島国際学院中学校・高等学校 高橋 由樹)

この度の安全登山講習会では、生徒を引率する身として、考えさせられることが多くありました。私はまだ登山歴1年も満たず、教わることも多く、生徒を引率するほどの技術や知識が足りていません。しかし、北アルプスや広島のような山を登っていく中で、季節ごとで彩りを変える山の魅力的な姿に、登山の楽しさを感じています。だからこそ、今後も登山を楽しみ、生徒を引率するために、今回の講習会で学んだ冬山登山の危険性や登山GPSアプリの使い方について、理解を深めていかなければならないと思いました。また、講習会では、「山は危険だから登らないのではなく、危険だから安全に登るために顧問が知識を蓄えることが大切だ」という言葉に感銘を受けました。登山を楽しむためには、根底に安全が必要であると再認識で



きたと同時に、実際に山に登ることを通して知識を蓄えていきたいと思いました。

最後になりましたが、この度の講習会でご講演、ご指導いただいた先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

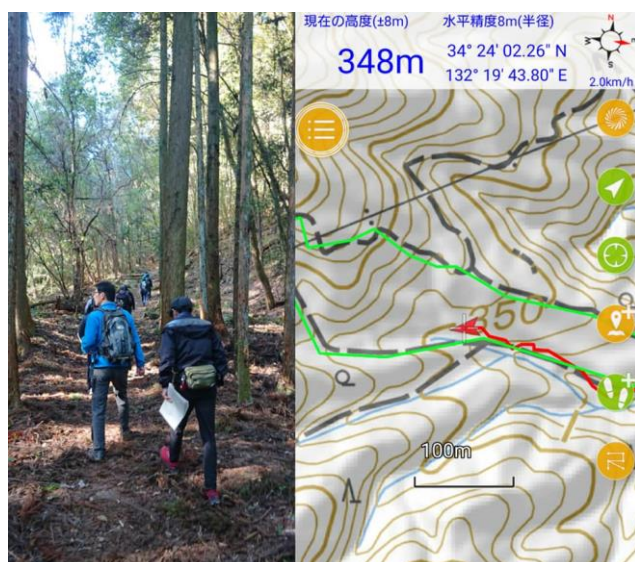
# 『広島県登山部顧問等安全登山講習を受けて』

（高陽高校 大熊 雄太）

今年度登山というものを、顧問として大会引率などで何度か体験しているが、自分にとって、これまで登山というものは未知な分野であり、知らないこと、分からないことが多くある。そんな状況であるので、各大会等でベテランの先生から装備の準備や地形の見方など多くのことを教わることで勉強をさせてもらっている。その中でも、冬山は全く経験したことが無かったので、今回の講習で高校生の冬山登山の現状や、県内の冬山の状況、安全確保の重要性のお話は大変勉強になった。生徒の安全を確保するためにも、引率する教員の冬山に対する知識を学ぶよい機会になったと感じる。また、2 日目の実技講習では、講師の森本さんに 1 から GPS の使い方や実際の登山の歩き方などを丁寧に詳しく教わることができ、今後の指導にも生かしていきたいと感じた。最後には実践的なロープワークも教わることができ、大変勉強になった。今後もこのような講習が開催されれば、積極的に参加していきたいと考えている。



1 日目講習会の様子。最後は参加者の話し合い



2 日目研修会の様子





危急時対応（雨避けシート張り）も少しばかり



## 7. 岳連短信

### 1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 477 (12 月号)

福山山岳会『会報』R 元. 12 月号

広島やまびこ会『やまびこ』No. 763 (1 月号)

広島山岳会『山嶺』第 852 号 (R 元. 11 月)

### 2. 12～1 月の行事案内

(集合時間・場所等の詳細は当連盟ホームページの「岳連カレンダー」のページを開き各行事をクリックすると確認できます。不明のものについては事務局にお尋ねください。)

12/15 チャレンジクライミング (Switch Climbing Gym)

12/21～22 全国高校選抜 S C 選手権 (埼玉県加須市)

1/5 新年互礼登山・岳連例会山行 (宮島 弥山～駒ヶ林)

1/22 岳連例会山行 (小室井山)

1/26 県民ハイキング (高尾山～呉娑々宇山)

## 編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

(左) 五日市高校校舎からの観音台団地と窓ヶ山